

特発性間質性肺炎の繊維化機序における Th1/Th2 リンパ球とそのサイトカインの関与
A Role of Th1/Th2 Lymphocyte and its Cytokine in the Fibrosis of Idiopathic Interstitial
Pneumonia.

○齊藤 雄二¹, 米田 有希子¹, 戸谷 嘉孝¹, 佐々木 文彦¹, 岡澤 光芝¹,
榊原 博樹¹(¹藤田保衛大医)

特発性間質性肺炎は肺の間質にびまん性の繊維化が生じる疾患であるが、その原因は不明と言わざるをえない。近年、肺線維化の機序に Th2 リンパ球および Th2 サイトカインが何らかの重要な役割を担っている事が知られるようになってきた。更に、米国においては Th2 サイトカインを抑制することによる肺線維化抑制を目的とした治療が開発されてきている。今回我々は、まず初めに特発性間質性肺炎患者の末梢血における Th1/Th2 リンパ球比と IL-4 および IL-6 等の Th2 サイトカイン濃度を測定し、健常者と比較検討した。その結果、特発性間質性肺炎患者において Th1/Th2 リンパ球比は有意に低く、Th2 リンパ球分画が繊維化の程度と相関を示す事が判明した。更に、IL-6 濃度が特発性間質性肺炎の活動性に影響を与えていると考えられた。次に、特発性間質性肺炎患者に、Th2 サイトカイン産生抑制剤であるトシル酸プラタストを投与し、その影響を検討した。その結果、トシル酸プラタストは、特発性間質性肺炎患者の肺機能を改善することが判明した。これら我々の結果からも、Th2 リンパ球とそのサイトカインが肺の線維化に重要な役割を果しているものと考えられ、最近の Th2 サイトカインと肺線維化の研究について我々の結果も含めて紹介したい。